しろのまほう

雪がまいちる寒い夜は

ぼくの足音だけが
泣いているかのように
ひっそりと響いてる

今日一日を乗り越えた
この世界を

雪は、ゆっくりと
真っ白な世界に変えてしまう

雪はまるで
しろのまほう

その雪は
ぼくの心にも降り積もり
傷を癒してくれるだろうか？

それともぼくを
消してしまうだろうか？

季節がめぐり
しろのまほうが溶ける頃には
ぼくの傷跡も溶けるだろう

春の暖かさに気づくように
隣の人の暖かさに
気づくようになるだろう

それまでは
この、しろのまほうの世界を
焦らずゆっくり歩いていこう